

“The Stars”

- p.1 子どもたちは週末おばあちゃんの家泊まりに行きました。
- p.2 「星を見に行ってもいい？」チップが言いました。
- p.3 「いいわよ」おばあちゃんが言いました。  
「今日は空気も澄んでいるし、月もないわ。ちょうどいいわね！」
- p.4 「サンベッド（日光浴用のベッド）がいるわね」とおばあちゃんが言いました。  
「そうすれば星を見上げられるもの」
- p.5 「サンベッドじゃないわ、おばあちゃん、スターベッドよ！」ピフが言いました。
- p.6 おばあちゃんと子どもたちは丘を登って行きました。フロッピーも一緒です。
- p.7 みんなはサンベッドを置いて、星図を見ました。
- p.8 「これが北斗七星よ」おばあちゃんが言いました。「これがあればほかの星が全部探せるのよ」
- p.9 「おなべみたいだね」キッパーが言いました。
- p.10 「ほら、あったよ！」チップが言いました。「北斗七星だ」
- p.11 「あっちの明るい星はふたご座よ」おばあちゃんが言いました。
- p.12 「あれはしし座」おばあちゃんが言いました。「そしてこっちが小犬座」
- p.13 「フロッピーどいてよ！」ピフが言いました。「見えないでしょ」
- p.14 「しし座が見えるよ」キッパーが言いました。「すごいわ、キッパー」おばあちゃんが言いました。
- p.15 「小犬座もあるよ」チップが言いました。
- p.16 「大きい犬もいるわよ！」ピフが言いました。

“Long Legs”

- p.1 キッパーはびっくり仰天しました。すごく大きくてすごく長い足を見たからです。
- p.2 「うわあ、大きい足だなあ！」キッパーは言いました。「うわあ、長い足だなあ！」
- p.3 「ピエロが竹馬に乗ってるんだよ」お父さんが言いました。  
「竹馬に乗ったピエロが2人だ」キッパーが言いました。
- p.4 1人のピエロは6コのボールで曲芸をしていました。  
「すごいなあ」キッパーは言いました。
- p.5 もう1人は6つの輪を使って曲芸をしていました。
- p.6 1人のピエロがひざを曲げて、キッパーと握手をしてくれました。
- p.7 「こんにちは、元気かな？」ピエロが言いました。  
「はい。どうもありがとう」キッパーが言いました。
- p.8 うちに戻る途中、風がふいてお父さんの帽子が木の上に引っかかってしまいました。
- p.9 「長い足がないと取れないね」キッパーが言いました。
- p.10 男の人がステッキを貸してくれました。  
「だめだ！届かない」お父さんが言いました。
- p.11 キッパーがお父さんの肩に乗りました。「まだ届かないや」キッパーが言いました。
- p.12 キッパーはピエロのところに戻って行きました。  
「お父さんの帽子をとってくれますか？」キッパーが言いました。

- p.13 「ぼくは背が高いんだけど、届かないなあ」ピエロが言いました。
- p.14 もう1人のピエロがキッパーを抱き上げました。「これなら大丈夫」そのピエロが言いました。
- p.15 ピエロはキッパーをもう1人のピエロの肩に乗せました。  
「やっと届いたよ」キッパーが言いました。
- p.16 「ずいぶん上だね」お父さんが言いました。  
「ずいぶん下だね」キッパーが言いました。

### “Floppy and the Skateboard”

- p.1 ビフとチップはウィルフと一緒にスケートボード場に行きました。
- p.2 ウィルフはすごいスピードですべりました。ジャンプもしました。
- p.3 ぐるりと向きをかえました。大した腕前です！
- p.4 チップは自分のスケートボードに乗って始めました。  
上に行ったり下に行ったりしてすべりました。
- p.5 ビフもスロープをおりてきました。  
「これ、おもしろいね！」ふたりは言いました。
- p.6 「うまいぞ！」ウィルフが言いました。「もう1度やったら、今度はぼくだよ」
- p.7 フロッピーもやりたくなりました。それでスケートボードの上に乗ってみました。
- p.8 フロッピーは坂を下りはじめました。  
「だめだよ、フロッピー」ウィルフが叫びました。
- p.9 ウィルフがフロッピーをつかまえようと走りました。ビフとチップも走りました。
- p.10 フロッピーはどんどん速くなります。  
「フロッピーをとめて！」チップが大声で言いました。
- p.11 ウィルフのお母さんがフロッピーのあとを追いました。でもフロッピーは速すぎました。
- p.12 「フロッピーを止めて！」ウィルフのお母さんが叫びました。  
ウィルフのお父さんがフロッピーのあとを追いました。
- p.13 でもフロッピーはとまりませんでした。スケートボードが飛びあがりました。
- p.14 「その犬を止めてくれ！」ウィルフのお父さんが叫びました。  
公園の管理人さんがあとを追いました。
- p.15 でもフロッピーは速すぎて、管理人さんもとめられませんでした。
- p.16 バシャッ！フロッピーは池に落ちこちてしまいました。  
「フロッピー、大した腕前だね！」ウィルフが言いました。

### “Gran's New Glasses”

- p.1 おばあちゃんはペンキの入ったびんを持っていました。窓枠をぬっていたのです。
- p.2 「おばあちゃん！」ビフが言いました。「ガラスの上もぬってるよ」
- p.3 「おばあちゃん！」チップが言いました。「壁にもぬってるよ」
- p.4 おばあちゃんが取り付けた棚がありました。でもそれはまっすぐについていませんでした。
- p.5 おなべが1つ棚から滑り落ちてガシャンとこわれました。  
「おかしいわね」おばあちゃんが言いました。
- p.6 おばあちゃんはピザを取り出しました。「夕ごはんはピザにしましょう」おばあちゃんが言いました。

- p.7 「あらまあ！」おばあちゃんが言いました。「これはダメね。上に何ものっていないわ」
- p.8 「もう、おばあちゃん」ピフが言いました。「このピザ、裏返しよ！」
- p.9 「おばあちゃん、きっと目がよく見えないんだよ」チップが言いました。「メガネを新しくしたら？」
- p.10 おばあちゃんは目の検査に行きました。やはりメガネを新しくしなければなりませんでした。
- p.11 「ずいぶんたくさんメガネがあるのね」おばあちゃんが言いました。  
「ちょっと新しいタイプのメガネにしてみようかしらね」
- p.12 おばあちゃんはこんなメガネをかけてみました。「ダメよ！」ピフが言いました。  
こんなのもかけてみました。  
「ダメダメ！」チップが言いました。
- p.13 「こんなのどうかしら？」おばあちゃんが言いました。  
「おばあちゃん、ぜったいにダメよ！」お母さんが言いました。  
「じゃあ、こんなの？」「それだけはかんべんして」お母さんが言いました。
- p.14 「これがいいわ」おばあちゃんが言いました。
- p.15 「どれどれ」子どもたちが言いました。「かけてみてよ」
- p.16 「前に使っていたメガネよ……レンズだけ新しいの！」

### “The Birthday Candle”

- p.1 今日はピフとチップの誕生日でした。みんなでパーティをしました。
- p.2 ピフはアニーナからバッグをもらいました。
- p.3 チップはボンゴという太鼓をもらいました。「わあ！すごいプレゼントだ！」チップが言いました。
- p.4 「ゲームをしよう」お父さんが言いました。「チームに分かれて」
- p.5 ピフのチームとチップのチームに分かれました。
- p.6 みんなに順番がまわってきました。「これ、おもしろいゲームだね」ウィルフが言いました。
- p.7 チップのチームがたくさん点を取りました。「チップのチームの勝ち」お父さんが言いました。
- p.8 そのあとお母さんがバースディケーキを持ってきました。  
でもろうそくが1本しかついていません。
- p.9 「チップと私は7歳よ」ピフが言いました。「ろうそくは7本でなきゃ」
- p.10 「いいや、1本だけだ」お父さんが言いました。「これでおわりだ」
- p.11 ピフとチップはがっかりしました。「ぜったい7本だよ」チップが言いました。
- p.12 お父さんがろうそくに火をつけました。シュシュシュッと音がしました。
- p.13 「下がって！」お父さんが言いました。「気をつけて！」お母さんが言いました。
- p.14 ろうそくがポンっとはじけました！大きな花が飛び出してきました。
- p.15 「お誕生日おめでとう！」お母さんが言いました。「このろうそく、ちょっとおもしろかったでしょ」
- p.16 「ほら、7本のろうそく」お母さんが言いました。「みんなでHappy Birthdayの歌を歌いましょう！」

## “The Seal Pup”

- p.1 アザラシの子どもが1匹砂浜にいました。  
「あのアザラシの子、お母さんがいないんだよ！」チップが言いました。
- p.2 「お母さんは食べ物を探しにいつているのかもよ」お母さんが言いました。
- p.3 「でももし迷子だったら？」ビフが聞きました。
- p.4 「お母さんアザラシが帰ってくるかどうか待ってみよう」お父さんが言いました。
- p.5 でも母親は帰って来ませんでした・結局お父さんが救助隊に連絡しました。
- p.6 やっとアザラシの救助隊が着きました。ヒルさんが様子を観察しました。
- p.7 「この子をボートに乗せなきゃ」ヒルさんは言いました。
- p.8 ヒルさんのチームはアザラシの子をボートに乗せました。
- p.9 「元気がないわ」ヒルさんが言いました。「エサを与えないと」
- p.10 子どもたちはアザラシを見に行きました。  
子どもたちはこのアザラシをシンバッドと呼びました。
- p.11 「ずいぶん元気になったわよ」ヒルさんが言いました。「私たちに知らせてくれてほんとによかったわ」
- p.12 子どもたちはまたシンバッドを見に行きました。シンバッドは大きくなって元気そうでした。
- p.13 「もう、海に帰れるわよ」ヒルさんが言いました。
- p.14 「やっと自由にしてあげられるわね」ヒルさんが言いました。
- p.15 チームの人がアザラシをボートから放しました。  
シンバッドはバシッと音を立てて海の中に入りました！
- p.16 「シンバッドを見て」キッパーが言いました。  
「さよならって言ってるよ！」